

「国際機械安全規格の意義と潮流」報告書

日時： 9月8日(水) 9.00～11.30

場所： 名古屋工業大学第9室

参加者： 13名

(1) 機械安全の国際規格の概要 福田隆文(長岡技科大)

国際規格の基本となる ISO/IEC Guide51, ISO12000 等の概念に関する基本説明。

安全とは?のプレゼン資料はこちら(pdf)

(2) 顧客が満足出来る機械を具現化する国際電気規格をベースとした仕様の標準化と効果

岡村隆一(NPO 安全工学研究所)

顧客満足度を高める為に、グローバル・ライフサイクル・標準化等を基に、国際電気安全規格を基に仕様書を標準化して展開したところ、安全が確保され費用削減につながった例の発表。

(3) 機械災害の分析結果に基づく保護方策の提案

梅崎重夫(労働安全衛生総合研究所)

労働災害の多い食品機械の分析を行い、今後の対応策の提案を行った。とりわけ、危険源近接作業の課題も明示された。

(4) 国際安全規格の潮流と EU の考え方

加部隆史(NPO 安全工学研究所)

欧州機械安全の概念と体系化では補いきれないこれからの人と機械の協働への対処、日本のモノづくりにおける暗黙知を形式知化する為の、SafetyServiceEngineering(SSE)研究会の概要発表。

(5) 安全コンプライアンス～国際安全規格の求める企業トップの責任～

杉本 旭 (明治大学)

グローバルな事故処理と日本のそれは大きな開きがある。今年スイスで表が鉄道が死亡事故を起こしたが、2日後には運転を再開した。安全の概念が整理されている故の結果である。危険源処理の確定論とその評価をリスクで行う確率論は、区別して理解すべき。安全は本質的な防御能力で保障され、その能力の限界でリスクが発生する。安全の制御は、事故を防ぐ本質的な能力を確保する為に行う。安全は運転の条件であり、安全の究極的な目的は、機械の停止の必要性が発見されない状況を獲得することである。危険状態発生そのものを制御によって創り出す安全制御(調整制御)の重要性を、改めて認識したい。企業の経営者は、これら状況を踏まえて、安全の実施を社内で徹底すべきである。

会場から複数の質問があり、その個別対応を踏まえて、司会者が総合討論において論点整理を行った(文責加部隆史)。